第一外科この1年

第一外科医長　西山　徹

診療スタッフ紹介

平成10. 6. 1より中久保善敬先生に代わり、福良厳宏先生が北大第二外科より赴任しました。学生時代はスキー部で距離競技をやっていたとのことですが、体型的にはその面影は全くありません。現在の趣味は、釣りと日本酒だそうです。二児の父親です。猪俣斉先生は平成10. 5月より2年目に突入しました。今までの一軒家の住宅が取り壊され、新築のマンションにネズミと一緒に引越したそうです。医局の独身会副会長の任期満了も迫ってきております。最近また身長が伸びたとの噂もあります。私は平成10. 6月より5年目に突入しました。

1998年手術症例

1998. 1. 1～1998. 12. 31までの局所麻酔を除く手術総数は292例（前年260例）でした。内訳は全身麻酔234例（前年215例）、腰・硬膜外麻酔58例（前年45例）です。緊急手術は73例（前年68例）、鏡視下手術は115例（前年94例）でした。鏡視下手術は全例全身麻酔ですので、全身麻酔症例の49.1%が鏡視下手術ということになり、bedの回転率の向上に大きく寄与しているものと思います。スタッフ3名というのは手術を行う一般外科としての最小単位です。病床数、マンパワーが許せばまだまだ手術症例数は増やせると思います。たとえば、平成10年度の痔核手術症例はたったの2例です。これは症例がないのではなく、実際には手術適応の患者さんを、外来で保存的に治療しているからです。痔核根治術には最低2週間程の入院が必要ですので、これを積極的に行っていたら、たちまち病棟はパンクしてしまいます。また現時点では、大学の医局の状況をみますとスタッフの増員は望めません。痔核の患者さんには申し訳ありませんが、しばらくこの状態は続くものと思います。

今後の目標と展望

鏡視下手術の適応は、手技の向上と器具の開発にともない飛躍的に拡大されてきております。当科としてもこの波に乗り遅れることのないよう、スタッフ一同努力していきたいと思います。

第一外科手術症例

(1998. 1. 1～1998. 12. 31)

1）食道疾患（2例）

食道裂孔ヘルニア	1例
胸部食道癌	1例

2）胃・十二指腸疾患（26例）

胃癌	19例
十二指腸潰瘍穿孔	3例
出血性胃潰瘍	1例
その他	3例

3）腸疾患（90例）

結腸癌	16例
直腸癌	11例
イレウス	13例
大腸穿孔	5例
SMA血栓症	2例
急性虫垂炎	38例
その他	5例

4）ヘルニア疾患（60例）

小児鼡径ヘルニア	16例
成人鼡径ヘルニア	43例
腹壁瘢痕ヘルニア	1例

5）肛門疾患（17例）

内外痔核	2例
肛門周囲膿瘍	9例
痔瘻	4例
肛門ポリープ	2例

6）肝・脾疾患（4例）

原発性肝癌	3例
脾悪性リンパ腫	1例

7）胆道系疾患（60例）

胆石	55例
総胆管結石	2例
胆嚢癌	1例
胆管癌	1例
総胆管拡張症	1例

8）膵疾患（3例）

膵癌	2例
膵嚢胞	1例

9）乳腺疾患（20例）

乳癌	17例
その他	3例

10）外傷（3例）

腸間膜損傷	3例
横隔膜ヘルニア	1例

11）その他（5例）

全身麻酔	234例
腰・硬膜外麻酔	58例
合計	292例

鏡視下手術症例

（1998. 1. 1～1998. 12. 31）

腹腔鏡下胆嚢摘出術	56例（242）
腹腔鏡下鼡径ヘルニア修復術	29例（101）
腹腔鏡補助下イレウス解除術	8例（10）
腹腔鏡下胃部分切除術	4例（9）
腹腔鏡補助下幽門側胃切除術	4例（4）
腹腔鏡下十二指腸潰瘍穿孔手術	3例（9）
腹腔鏡補助下結腸切除術	2例（11）
食道裂孔ヘルニア修復術	1例
VATS 胸腹部食道全摘・HALS 胃管作成	1例
腹腔鏡補助下総胆管結石砕石術	1例（2）
腹腔鏡下虫垂切除術	1例（2）
胸腔鏡下左外傷性横隔膜ヘルニア修復術	1例
腹腔鏡補助下人工肛門造設術	1例
腹腔鏡補助下小腸切除術	1例
その他（診断的腹腔鏡）	2例

（　）は当科経験数　合計　115例

第二外科この1年

第二外科医長　　吉　田　博　希

はじめに

平成5年に胸部心臓血管外科の診療を開始して以来、年々手術例数も増加し、着実に進歩してきました。近隣の市町村からもいろいろな患者さんを紹介していただけるようになり、胸部心臓血管外科としての診療も軌道にのってきました。これも院内および院外の皆様のご協力のたまものと感謝しております。

診療スタッフ

第二外科の診療は和泉裕一（手術室長）、吉田博希（医長）ならびに長谷川聡（研修医）の3人で行っています。研修医として平成10年3月31日までは清水紀之（旭川医大18期）が在職し、4月1日から長谷川聡（旭川医大19期）が勤務しております。研修医は毎日朝早くから夜遅くまで仕事があり、徹夜をしても、夜中に呼び出されても、朝方まで飲んでいても、次の日は朝からカンファレンスがあり、その前に病棟も見なければな